

このところ、総合安全保障の論議が盛んになってきている。かつては国の安全保障という点、安保（日米安全保障条約）にその典型的な例がみられるように、もっぱら軍事面に重きがおかれていた。ところが、第一次・第二次石油危機を経て、さらに食糧問題がクローズアップされてくるにつれて、安全保障の問題を越えた問題となってきた。この帰結として、生まれてきたのが、総合安全保障の概念であると思われる。

政府も、今月、二日の閣議で総合安全保障関係閣僚会議の設置を正式に決め、鈴木首相を先頭にこの問題に積極的に取り組む姿勢を示している。大変結構なことと思う。

## 安全保障

古明地 秀行

を考えてみた。①危機、危険の的確な予想と早期発見、及びそれに対する適切な対応。各国は、このための情報収集にきわめて熱心である。②危険の適正な分散。日本の中東エネルギー七割依存には批判が多い。③一定の余裕（むだ）の確保。石油の備蓄等物質面での余裕の確保は勿論、精神面における余裕への配慮も必要ではないだろうか。④精神的安定と軽度の危機意識の保持。パニック状態が危機を増幅させる例をあげるまでもなく、過度の悲観は安全を危くする。過度の楽観もまた同じである。

考えてみるに、安全保障の問題は、国家の問題に留まらない。これは、学校でも、家庭でも、各個人のレベルでも非常に大切な問題ではなからうか。一考をすすめたい（本校生物科教諭）